1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1271202606		
法人名	株式会社めいとケア		
事業所名	グループホームめいと中金杉		
所在地	千葉県松戸市中金杉2-72		
自己評価作成日	平成22年4月27日	評価結果市町村受理日	平成22年6月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階
訪問調査日	平成22年5月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者様に「この施設に居て自分は幸せだ。」と感じてもらいたいのは、すべての施設の共通の願いだと思います。当施設がそのために特に取り組んでいることは、入居者様に、各自の居室から出ていつもリビングルームに集まってもらう、ということです。「リビングルームに行けば、みんながいておしゃべりができて面白い。今日もリビングルームに行ってみようか！」という気持ちになってもらうことです。みんなが揃えば、ゲームも楽しめます。輪投げも興奮します。だれかの言った一言がみんなの笑いを誘います。リビングルームに笑顔があふれます。昼間は全員がいつもリビングルームにいて笑顔の絶えない施設であること、これが当施設の目標です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

管理者は入居者の尊厳を基調とする理念を実践するためには、職員の資質向上が最も重要と考えている。 3月には『グループホームとは』、『言葉遣い』、『職員心得』などをまとめた冊子を作成した。又、認知症の理解や、行動障害に係わる手作り教材（CD）を作ったり、参考となる本を推奨し、全職員で回覧している。その中で各職員が自分の特技、持ち味を自由にサービスに活かすことが出来、互いに知識と理解を高め合っている。こうした日頃の積み重ねが成果を結んでおり、その結果、職員が自信を持つことにつながっている。

V．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価（Aユニット）　および外部評価結果（全体）

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	6つの理念を掲げ、職員全員がその理念に共鳴して誇りをもって介護の実践にあたっている。	管理者は2年前、入居者の尊厳を守るということを基調とした理念を作成した。今年始めには『言葉遣い』『職員心得』『グループホームとは』などをまとめた冊子を作成し、職員と共に原点を見直し、実践することを話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会の一員として承認され、お祭りから清掃まで地域の行事ごとに参加するとともに消防避難訓練などの共同実施の計画もある。	運営推進会議で介護事例を紹介した折、地域住民から『介護相談会』の実施を持ちかけられ、早速6月の町会で行うことにした。その他にも、小中学生のミニコンサートや雅楽演奏会など実施し、交流は多様である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談会の日の実現に向けて地域自治会と調整中。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の活動の自由の保障と身体拘束の境界線等踏み込んだテーマも議論しており、構成員それぞれの立場からの貴重な意見を頂き参考にしている。	入居者と家族、地域、行政関係者などの参加で昨年は5回実施した。その内容は要望、助言、対応などの項目ごとに整理し、報告書としてまとめている。『外出と安全』などの検討テーマはリスクを伴う事例も紹介している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からないことや困ったことが生じた場合には、躊躇うことなく担当者に電話により相談し解決している。担当者の運営推進会議への参加による利用者家族との直接対話も有意義であった。	行政担当へはヒヤリハットの事例や運営上の課題などを報告、相談し、アドバイスをもらう等している。　運営推進会議にも前回は行政から4名の参加があった。　その後も折に触れ来訪があり、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠については、運営推進会議でも意見が分かれ、現在のところ、施錠しないで見守りによる徘徊防止に取り組んでいる。	鍵の問題は家族を含む関係者とよく話し合いをすることが大切と考えている。関係者の意見は分かれるが、玄関の施錠は家族、地域の人々とも関係を断ち切る元になると説明し、事業所の判断に理解を貰っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	介護にあたっては、利用者の「人間の尊厳」を片時も頭からなくさないことが当施設の理念であり、虐待に対しては厳格な態度で臨むこととしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修済であり、今後職員へ教育していく予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規入居にあたっては、原則として、1日体験入居をしていただき、実際に生活していけることを確認して契約に踏み切るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族との連絡はきめ細かく行っており、意見・要望はいつでも伝えられる状況。市の介護相談員が月1度訪れ各利用者と対話している。	利用者家族の住まいは近隣であり、来訪機会は多い。家族の声を聞く機会はよくあり、要望などはノートに記録し、改善に繋げている。重要なテーマは年1回の家族会で報告し、検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案に対しては、迅速に答えを出すようにしている。	普段から個別に話し合うことが多いが、緊急時はミニミーテイング（月3回程度）を開催し、早めに対応している。全員で話し合う全体ミーテイングは隔月に行っている。重要な案件は経営者に報告、相談し、早い結論を出している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めていると思う。例えば、賞与の査定などにおいて、職員の普段の努力に応えるような配慮がなされている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部における研修の参加について積極的に奨励しており、一定の条件のもとに費用の助成も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	松戸市のグループホーム協議会に加入しており、横の連携にも努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する前に体験入居を実施し、本人の生の声を聞いて提供するサービスを決定している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に先立ち、家族から本人のこれまで生活の態度の説明を受けるとともに、施設で対応できることとできないこととを分けて説明し、納得のうえで入居していただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	体験入居により、入居時に本人がまず必要としている支援を把握し、入居後の対応を準備している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員の採用・教育にあたり、「利用者とともに生活する。」というグループホームの形態に適した人材の発掘・育成に努め、その成果が表れている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への連絡を密にし、本人の変化に対しては、家族の意向を大切にして対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙やはがきの投函などを支援し、親戚や友人の訪問に対しては出来る限りの便宜を図るようにしている。	文章を書くことが好きな入居者には、はがきや切手を用意する等の支援をしている。元先生だった入居者に教え子が訪ねてきたり、親戚の来訪があった場合などは写真を撮ったり、食事を一緒にし、その内容を家族にも報告して、関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の食堂テーブルの配置や着席位置に工夫を凝らし、気の合う者同士の触れ合いを大切にしている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	介護老人保健施設などに転居された利用者に対し、その後の様子などを家族から伺うようにしている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の暮らし方の意向については、本人とことん話し合い、納得の得られた介護を提供している。	入居者や家族の意見を大切にしているが、希望や意向を表明できない人も増えてきたので、職員と2人だけで過ごす時間を大切にして、耳元で話しかけたり、スキンシップを通して意向を汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の調査において、本人のこれまでの生活状況は重要な要素と捉えてその把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者各人が年齢を重ねることによって緩やかに変化しており、急激な変化と合わせて絶えず見守り観察を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成にあたっては、本人や家族の希望を尊重するとともに、主治医や担当職員の意見を反映した達成可能な短期・長期目標を設定し現状に即した介護を提供している。	普段の生活の中で把握した入居者や家族の思いや意向、更にかかりつけ医からのアドバイスも反映させ、介護計画を作成している。全職員で行うミーティングの際にモニタリングを行い、介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には各職員が気付いた事を自由に書き込んでもらい、管理者による指示につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスの多機能化といえるほどではないものの、その時々の状況に応じた臨機応変な対応を工夫している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	読書ボランティアの定期的訪問により、物語の世界を楽しんでもらったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関への個々の利用者の受診については、平素の健康管理に基づく緊急時対応の利点などを説明し納得いただいている。	協力医が月2回訪問診療を行っており、その機会をサービス担当者会議として、生活上のアドバイスも受けている。これまでのかかりつけ専門医への受診支援も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調の変化に関しては、最新の注意を払い、介護職が気付いたことは直ちに管理者に報告される。管理者は看護師に連絡するとともにその指示を受ける体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院内のソーシャルワーカーと必要に応じて連絡を取りあっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時において、終身施設ではないことを理解してもらい、重度化や終末期に至った場合にもできる限り当施設で介護サービスを続けるものの、限界に達した場合には当社他施設の提供の用意がある旨説明している。	法人本部と話し合い、ターミナルケアは行わない方針を統一した。家族にもできること・できないことの説明をし、ホームでの生活が難しくなった場合には、法人内施設を紹介するなど、安心して生活できる体制を整えた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的訓練はしていないものの、緊急時対応のマニュアルはできており利用者の急変の場合には順調に機能している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防避難訓練を定期的に行い、避難方法についてはいろいろな場面に対応した方法を検討している。今後地域と合同で消防避難訓練を行うことも検討中。	職員がすぐ動けるよう役割分担を決めたり、事務室の壁に大きな文字の手順書を貼るなどの準備をしている。定期的な訓練を行い、今秋には近隣住民とともに行う避難訓練を予定している。	火元を絶つことが最大の予防として、台所のIH化等を進めているが、火災に限らずあらゆる災害を想定して、全職員でさらに訓練を重ねることが重要と思われる。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が利用者に話かける場合には、敬語を使うことを原則とし、また、利用者を「～ちゃん」と呼ぶことは厳禁している。	管理者は一人ひとりの人格の尊重をホームにおけるサービスの根幹と考え、職員採用の段階から意識づけしている。入居者の行動のみに目を向けるのではなく、行動に至る気持ちを理解し、さりげないケアを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望に耳を傾け、その希望に向けて一緒に努力してあげるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームは最大定員9名と少人数のため、相当程度まで、本人の希望には応えられていると思う。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に鏡を見てもらう回数を多く取り入れることで身だしなみに関する意識を持ち続けられるよう支援している。訪問理美容を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の配膳・下膳・食器洗い・収納などは利用者と職員が一緒に行う。食事もリビングルームにて利用者と職員が一緒に同じ物を食べている。	調理は炊飯以外は隣接する有料ホームで一括して作り、入居者と十分に接する時間を確保した。外食が困難な入居者が増えてきたため、入居者の要望も反映し、バーベキューやホットケーキ作り、松花堂弁当スタイルなど、ホーム内での食事に力を入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事は栄養士の献立を基にして調理されカロリーのバランスのとれたものとなっている。食事の量は各自の状態にあわせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを励行。独りで歯磨きのできない利用者に対しては、歯磨き介助を行う。義歯は洗浄剤を用いて洗浄している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄サイクルおよび排泄サインを把握し、適切にトイレに誘導することで尿失禁やおむつの使用をなくすようにしている。	介助が必要な入居者はトイレ誘導表を利用し、声かけを行っている。職員のきめ細かい見守りや「だめ」と言わない受容の姿勢により、自立度が大きくアップした人もおり、職員の励みになっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表で確認をしながら、水分補給・ヨーグルト・牛乳など個々に応じた対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は基本的には、週2～3回のペース。本人の身体の状況をみて変更することもあり。入浴の順序の希望に応ずることはできるものの、入りたいときに入るという希望には沿えていない。	毎日入浴の準備をして、最低でも週2回の入浴を確保し、状況に応じて柔軟な対応をしている。入浴好きな入居者には、毎日でも入浴支援ができるとなおよいと思われる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が横になりたいときには、いつでも自分の居室に戻って横になれる体制をとっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	すべての職員が服薬の業務を担当することになっており、各利用者の服用している薬について充分に理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽器を演奏できる人、絵を描くのが好きな人、歌を歌うのが好きな人などに応じて、カラオケを設置したりして応援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ベランダで過ごしたり、近くを散歩したりしている。施設から離れた場所については家族に協力をお願いしている。	ADL（日常生活動作）が低下し、毎日の散歩はだんだん困難になってきたが、できる限り外気に触れるよう心がけている。近くの図書館に行ったり、家族と外出する入居者もいる。	ボランテイアの力を借りるなど、可能な範囲で個別の外出支援策を期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を理解している方に対しては、職員は干渉せず本人に任せている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への連絡に関しては、本人の依頼を受けて職員が連絡をとってあげるようにしている。そのうえで本人が電話口に出ることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関入り口横のミニ花壇、庭に張り出したウッドデッキなどに季節の草花を配置し季節感を演出している。リビングルームは、直射日光が入らないようレースで遮断し、BGMを流すようにしている。	入居者の目線にあわせた位置に時計をかけたり、季節の花を飾る、食事の後にテレビのニュースで世の中の動向を知ってもらうようにする等、入居者が生き生きと暮らせるよう工夫をしている。職員が大声をだしたり、忙しそうにバタバタしないなどの配慮も行き届いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングルームには、ダイニングテーブルのほか、ソファーを設置し少人数で一緒に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居にあたり本人の使い慣れたものをお持ち頂くようお願いしている。	一人ひとりの馴染みの物を持ち込んでいる。押し入れが広いので衣替えなどを職員が手伝うこともあり、居室ごとに担当職員を決め、居心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内はバリアフリーになつており、廊下・トイレ・浴室などに手すりが設置されている。		